

科目名	地域産業と技術 Industry and Technology in Niigata	科目コード	A0020
-----	---	-------	-------

学科名・学年	全専攻・1年（プログラム3年）
担当教員	佐藤（公）、田中聡、鈴木覚、涌田、外川ほか
区分・単位数	専攻科科目・必修・2単位
開講時期・時間数	後期，30時間【内訳：講義26，その他4】
教科書	各講師からの配布資料、プリント
補助教材	プリント、ビデオ、ウェブページ、プレゼンテーション
参考書	各講師から指示

【A. 科目の概要と関連性】

この科目は学生の地域理解と本校の地域との連携とを目的として平成18年度から導入された科目で必修である。学生が長岡地域について様々な角度から理解することはもとより、本校と地域との交流、及び、連携、協力やネットワーク作りも視野に入れている。

まず、本校教員の講義により、地域についての歴史や倫理観、文化、心理及び、市民社会、社会経済とその変化の原動力であるイノベーションについて学生の理解を深める。次いで、各地域の分析を専門とする研究者を招聘して講義していただき、学生の地域産業への理解を深める。後半に、地域の企業の技術や経営担当の方から講演していただく。その際、企業の実際を紹介してもらって、その企業の仕事および技術について学生の理解を深める。

○ 関連する科目：法学、社会学、歴史学Ⅰ（以上前々年度）

○ 歴史学Ⅱ、哲学、経済学（以上前年度）

【B. 到達目標と学習・教育到達目標との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①地域の歴史や倫理観、文化及び、市民社会について知ること。	30%	(F2)
②地域の産業について理解すること。	50%	(F2)
③地域の企業の技術者から産業技術と企業内容について知ること。	20%	(F2)

【C. 履修上の注意】

地域の産業や社会、及び諸問題について、参考文献や新聞を読み、ネットで調べておく等、積極的に授業に参加すること。また、地域独自の技術や企業に注目して、講演会に出席してもらいたい。

【D. 評価方法】

定期試験【0%】（前期中間（0）、前期末（0））、その他の試験【0%】、レポート・小論文【80%】、

その他【20%】（授業・講演内容についてのコメント等）の割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格点とする。レポートの宛先：ham310@nagaoka-ct.ac.jp

【E. 授業計画・内容】

● 後期

回	内容	備考
1	はじめに、ガイダンス：イノベーションとナショナルイノベーションシステム、長岡地域の交流ネットワーク	佐藤公俊、田中聡、鈴木覚担当
2	地域史研究入門	田中聡担当、課題：小論文
3	長岡地域と思想	鈴木覚担当、課題：小論文
4	上越地域の産業と発展（1）	鈴木敏紀（本校非常勤）担当、課題：小論文
5	上越地域の産業と発展（2）	鈴木敏紀（本校非常勤）担当、課題：小論文
6	上越地域の産業と発展（3）	鈴木敏紀（本校非常勤）担当、課題：小論文
7	長岡地域とウェット夫妻	佐藤公俊担当 担当、課題：小論文
8	地域の産業と企業（1）	松本和明（長岡大学）担当、課題：小論文
9	地域の産業と企業（2）	松本和明（長岡大学）担当、課題：小論文
10	地域の産業と企業（3）	松本和明（長岡大学）担当、課題：小論文
11	地域の産業と企業（4）	松本和明（長岡大学）担当、課題：小論文
12	長岡の江戸期の数学	涌田、外川担当、課題：小論文
13	長岡地域の産業遺産と行事	長谷川健一（本校非常勤）担当、課題：小論文
14	地域の企業と技術：講演会	技術協力会、佐藤公俊・田中聡・鈴木覚担当、課題：レポート
15	地域の企業と技術：講演会	技術協力会、佐藤公俊・田中聡・鈴木覚担当、課題：レポート